

地域計画（モデル地区）の取組状況（令和6年11月末時点）

農地の集積・集約化を進め、経営の効率・安定及び所得向上を図っていく				長崎県平戸市 向月地区	
農業を担う者数 （うち担い手）	20経営体 （6経営体）	農地面積 （うち農振農用地）	19ha （18.3ha）	主な農畜産物	水稻・かぼちゃ・ 馬鈴薯
農業地域類型	中間農業地域	遊休農地	—ha	現状の集積率 （目標）	43% （82%）

地域の現状と課題	将来の地域農業の方向性
・平戸市は、長崎県北西部に位置し、平戸島とその周辺の島々で構成されており、北に玄界灘、西には東シナ海が広がっている。県庁所在地の長崎市からは、約125km離れている。 ・向月地区の主要作物は、水稻、かぼちゃ、馬鈴薯の生産が行われている。 	・水稻や馬鈴薯、カボチャ、小麦などの多様な農業が展開されている地域であり、優良農地が広がっている。これらの農業を維持継続、さらには拡大していくため、地域内の認定農業者を中心に農地の集積・集約化を進め、経営の効率・安定及び所得向上を図っていく。 また、農業所得の向上及び農業経営の安定を図るため、複合経営やスマート化、高収益作物栽培への転換等を進める他、後継者の確保と農地の保全を図っていく。 基本的に、地域と中山間地等直接支払交付金事業及び多面的機能支払交付金取組組織と連携し鳥獣被害対策及び農地の維持管理・有効活用に取り組んでいく。

協議を進める過程で発生した課題	取組経緯（課題への対応）及び今後の予定
・話合いの場において、「10年後のことはわからないが、基盤整備地は残していきたい」、「猪の被害が深刻」、「現時点でも保全が難しい農地がある」、「裏作としてかぼちゃ、ブロッコリーを作っているが、収穫機関が短くなってしまうため、早期米の田植え前に収穫できる品目の検討が必要」等の課題が出された。	・事前に基盤整備事業に関する協議において、制度説明や意向調査を行い、令和5年9月22日に協議の場を開催した。 ・土地改良区、中山間直払、多面組織関係者を参集し協議を行い、意向調査を反映した目標地図素案を用いて説明した。 ・協議の場では、現況地図に担う者の情報を表示することで、「耕作状況や荒れた農地の状況などが把握できてよかった」との意見もあった。 ・令和6年1月協議の結果を公表し、3月に案の公告の上、3月に地域計画を策定。  目標地図の素案（航空写真）